

杉並区里親フォスタリング業務企画提案書概要

業務を行う上での姿勢・方針、目的・役割、実施内容

- 常に「子どもの最善の利益」を中心に考え、里親制度は子どものための制度であるとの認識のもと、家庭と同様の養育環境を提供し、子どもの健やかな成長を保障することを目指していく。代替養育を必要とする子どものパーマネンシーの保障や、社会的養護自立支援の推進等に注力しながら、里親家庭と子どもの支援を行う。
- 子どもが養育者との結びつきを感じながら、安定した家庭環境の中で成長・発達することは、子どもの親子関係の再構築、家庭復帰を考えても重要である。子どもが安定した家庭環境で成長・発達できるよう、里親家庭を支援していくことが不可欠であると考えます。
- 仕様書に従い、児相と相談の上、各種業務を実施していく。研修等の実施にあたっては、参加しやすさ等を考慮し、土日夜間の対応・開催やオンデマンド配信等も取り入れる。アンケート等で把握した里親家庭からのニーズについても適宜反映し、里親家庭の声も大切にしながら業務を進めていく。地域に社会的養護の実際が一層浸透するよう広報に努め、里親家庭と子どもが安心して暮らせる地域を目指す。

質の高い里親等養育を実現するために大切にすること、里親等や子どもとの信頼関係の構築に向けて努めるべきこと

- 支援者、伴走者として「子どもの最善の利益のため」の視点を見失わず、言うべきことは言い、すべきことを誠実に行う。その積み重ねが、質の高い里親等養育の実現に繋がると考える。日々子どもを受け入れ養育に尽力してくださっている里親家庭への敬意を忘れないなど、当事者への配慮を怠らない。「安心」と感じられる関わりにより、里親子が信頼できる、相談したいと思える存在となれるよう努める。
- 信頼関係の構築に当たって、里親家庭に対しては、話を丁寧に聞き、そのニーズや思いを的確に把握し、問い合わせに対する迅速な対応や正確な情報提供を心がける。子どもに対しては、存在を覚えてもらい、子どもに応じた距離感を測りながら、適切な時期に適切な声掛けと正確な情報提供を行いたい。

区や児童相談所、乳児院、児童養護施設、地域の医療機関、各種支援機関等との連携・協働 事業者が果たすべき役割、区や関係機関等との情報共有・連携のあり方等

- 児童相談所との信頼関係の構築、関係機関との協働が必要不可欠と考える。杉並区は児童養護施設5施設と乳児院2施設を持つ、都内で最も社会的養護が充実した地域であると言える。関わる誰もが「子どもの最善の利益のため」との共通の目標に向かっていくことを念頭に置き、互いの考えを尊重しながら、「共に」の姿勢を持ち、それぞれの役割を果たすことが求められる。
- 誠実に業務を進めていくことで、関係機関との信頼関係を構築し、それぞれが持つ強みが最大限に活かされるよう、橋渡しをする役割も担っていくことができるよう、力を尽くす。

業務運営における視点・業務に関する手順

里親の効果的なリクルートから登録までを行う取り組み

- 里親登録を増やすリクルートと里親制度普及啓発の二本柱で事業を行う。ホームページを作成し、SNSも活用しながら、リクルートを促進する。制度説明会や出前講座の実施、商業施設や地域イベントに積極的に参加し、子育て層や多くの区民に普及啓発を行うことで、制度への理解も促進する。
- 子どもの命を預かる公的な制度であること、社会的養護への理解や登録動機等、十分に聞き取り確認していく。里親としての適格性について複数の職員で検討した上で、慎重に研修案内へと進めていく。里親登録に関わる実務については、事前に児相と役割分担について十分に相談の上、実施していく。

里親研修・トレーニング

- 仕様書に従い、里親として習得していただきたい知識やノウハウについて学ぶことができる内容を検討する。土日夜間の開催やオンライン及びオンデマンド配信の活用など、より参加しやすくすることで、参加意欲を高める工夫を行う。家庭に合った個別のプログラムを実施する。

未委託家庭への委託促進に向けた効果的な取り組み

- 定期的に未委託家庭の状況を確認し、受託に繋がるような研修等の案内を行い、家庭の強みや課題などを共有し、課題の改善を目指す。登録前後で関わってきた職員とも十分に連携し、委託に繋がる支援を積極的に行っていく。

里親と子どものマッチングや円滑な交流に向けた準備、関係機関との連携の取り組み

- 受け入れ候補となる里親家庭について深く理解し、関わりの中で把握した情報をマッチングに最大限に

活かす。

○交流から委託までの一連の流れについて、事前に丁寧に説明する機会を設ける。イメージや里親家庭に必要なとされる対応や変化等について、交流前の段階である程度想定していただくことで、里親家庭の不安を最小限とできるよう心がけ、円滑な交流の開始を目指す。

○交流先の施設の里親交流支援員、里親支援専門相談員、子ども担当児相等とも連携を図る。

里親家庭に起こりうる課題とその解決策・里親家庭の個別ニーズの把握方法

○支援者に相談できず、里親家庭だけで抱え込んでしまう可能性がある。SOS を出しやすい関係性を構築していくため、委託前の段階から信頼関係を築き、日々の養育に対する感謝や敬意を示し、安心していただける関わりを積み重ねていく。措置権を持たないフォスタリング機関としての立場を最大限に活かし、担える役割を果たしたい。

○学校や保育所等の子どもの生活の場における周囲の理解度や受け入れ体制等により、困難が生じる場合がある。所属先への訪問や適切な制度説明等により、確実に理解を促していく。

○里親家庭の個別ニーズについては、アンケートの活用や家庭訪問時等に里親家庭の思いを確認することで、その先にある希望や要望についても把握していけるよう努める。

子どもと実親に関する支援

○登録前研修の時点から、実親との交流の重要性と必要性について里親家庭への理解を促す。登録以降も、その認識が薄れないよう、繰り返し理解を確認する機会を設ける。

○面会交流実施後の里親家庭に対するアフターフォローを行なうことを中心に、児相と相談の上、フォスタリング機関として対応可能な実務を担う。

自立のために必要な知識や技術等の習得

○子どもが安定した日常生活を送り、安心を感じられていることが基本として大切であるとする。周囲の大人との間に安心感や適切な関係性を築くことができることも肝要である。定期的に顔を合わせ、話をする機会を設けることを通して、関係を構築していく。子どもが自分事として「自立」を捉えていけるような関わりの工夫に努める。

○自分自身の力で取り組みながら、必要な時には適切な大人に適切に頼ることができる力を育む関わりを心がける。自立に関する勉強会や、同じ立場の子ども同士で繋がりを持てる場としての交流会を企画開催する。楽しみながら学べる機会を提供する。

○アフターケアについては、杉並区社会的養護自立支援拠点事業に円滑に引き継いでいけるよう、十分に連携し協働していく。

危機管理対策

○子どもの安全に関わるリスクを予防・軽減するために、関連講座への受講を促すほか、チーム養育体制を活かし、複数の目で見守る体制をとる。さまざまなケースを想定した上で、事前に対応策を検討し、児相とも共有する。事故が起きた際には、速やかに児相に報告する。

○情報管理やコンプライアンスを徹底する。

職員配置・職員研修計画・組織的対応。社会的課題の解決に関する考え方

○職員は、里親支援の経験者を配置し、基本方針に沿い、里親支援に熱意を持って職務に当たる。定期的な研修でステップアップを図り、スーパービジョン等で、業務上での悩みや迷いについて、助言を受けられる機会を設ける。

○業務の質を向上させるため、アンケートや意見・苦情受付を行い、定期的に自己点検を行うことで、振り返りや見直しをする機会を作り、改善策を検討する。

○就業規則等に基づき業務を進めるほか、当会心理職としての倫理規程、倫理綱領、倫理ガイドラインを遵守し、業務を行う。相談できる体制を確保する。

提案により期待される効果

○地域における制度理解が深まることによる、里親子が一層暮らしやすい地域づくりの促進。

○委託が見込める里親家庭のリクルート及び里親家庭が安心して養育に臨むことができるバックアップ体制の強化。密な連携・協司によるチーム養育体制の活性化。

○効果的な研修実施による里親家庭の対応の引き出しの増加。

○実親との面会交流が円滑に行われた事例の積み重ねによる、里親委託を選択する実親の増加。

○安心を感じられる自立支援により、里親子ともに新たな一歩を踏み出すための後押し。